

箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
箕面ユネスコ協会事務局
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20
みのおキューズモール2Fみのお市民活動
センター内 箕面ユネスコ協会（メル・ブックス）
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



- ◆ 目次 ◆
- 活動報告
- お知らせ

♪ ホームページ折々に更新中！
「箕面ユネスコ協会」
で検索してください♡

第34回 みのお市民人権フォーラム

＜統一テーマ＞ いっさいの差別を許さないために話す、語る、伝える、分かち合う

第34回を迎えた「みのお市民人権フォーラム」に、箕面ユネスコ協会の垣内啓治副会長がパネリストとして参加しました。参加者のみなさんから大変好評をいただきました。



◆ 第1分科会 「地方自治」
12月7日（土）17:00～18:30 グリーンホール 会議室
「すべての人にやさしいまち・箕面の創造」に向けた人権尊重のまちづくり

コーディネーター：大谷晋也さん 大阪大学国際教育交流センター准教授
パネリスト： 垣内啓治さん 箕面ユネスコ協会・萱野小校区青少年を守る会
木多道宏さん 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ企画調整室長
大学院工学研究科教授
みのおTAMASA の皆さん



箕面ユネスコ協会 垣内啓治副会長が第1分科会のパネリストとして登壇しました。第1分科会は「すべての人に優しいまち・箕面の創造」に向けた人権尊重のまちづくりとは、というテーマで進められました。垣内副会長は日ごろ取り組んでいるユネスコ協会や萱野小地区青少年を守る会での活動報告をしました。どの活動も地域に密着したものであり、『人に優しいまちづくり』に繋がっていると改めて感じることができました。報告の最後に「このプレゼンテーションをするにあたり協力してくれた方々に感謝します。特に妻と娘に感謝します。」と付け加えられていたことに垣内副会長の優しさを感じました。

（前田 ひとみ）



「すべての人に優しいまち・箕面の創造」に向けた多様な人権尊重のまちづくりとは

豊川北小学校 5年生 ～総合的な学習『豊北 つながりプロジェクト』～

1学期には、ネパールの留学生ルペシュさんや、ネパールでホストファミリーとの生活を体験した春日丘高校生のお二人から話を聞いた5年生のみなさん。2学期もネパールを通して世界と親しくなる活動が続いています。

■ネパール料理にチャレンジ!の巻

10月31日、1学期は先生方だけが味見したネパール料理を、今度は子どもたちが作って味わいました。各クラス7グループになり、それぞれ



のグループで力を合わせてネパールの定食ダルバート〈ダル=豆汁・バート=ご飯・アルゴビ=おかず〉作りに頑張りました。味付けは、岩塩とニンニク、生姜、ハ



ブで。野菜そのもののおいしさが生きる素朴なお料理です。現地の習慣に合わせ、右手で上手に混ぜ合わせて味わう子どもたちもたくさんいました。「ミトチャ! (ネパール語の美味しい)」の音がいっぱい聞こえました。



ネパール調べを発表しながらの試食会です

♪作っている時に独特の香りがしておいしいかな?と思いましたが、食べてみるとおいしかったです。それにふ段日本ではできない右手で食べるというネパールの文化にふれられてよかったです。ありがとうございました。ミトチャ!

■世界にある課題の巻



12月10日には、世界にある識字課題について考えました。とりわけ、マララさんの国連スピーチの動画は子どもたちの心を強く動かしたようです。日本ユネスコ協会連盟が進めている世界寺子屋運動についても紹介させていただきました。

- ♪学校の場合がどんな所かあらためて分かった。自分もだけと世界の子も全員が「マララさん」みたいな意思を世界におけていければいいと思った。
- ♪マララさんを図書館では見たことがあったけど、どんな人かがわからなかったけど、あんなにすごいことをしてすごいな～って思った。書きそんじはがきをあつめまくる。
- ♪世界では、こんなに小学校に通えない人がいるんだなと思いました。もっと考えて学校に通ったり、字を書いたりしようと思いました。

子どもたち、先生方、ありがとうございました。3学期の活動を楽しみにしています。
(大濱 淳子)

Q3 小学校に通うことができない理由は?



- ① 学校や先生の数が足りないから
- ② お金がないので働かなくてはいけないから
- ③ 親などが学校に行かなくていいと言うから
- ④ 戦争などで学校がこわされたりしたから

One child, one teacher, one pen and one book can change the world. Education is the only solution. Education First.



1人の子ども、1人の先生、1冊の本、そして1本のペン、それで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策です。エデュケーション・ファースト!

学校は…

- ・いろいろな考え方を知る場
- ・自分の考えを語るための言葉を手に入れる場
- ・悪い状況をよりよい状況へと変える力を得る場



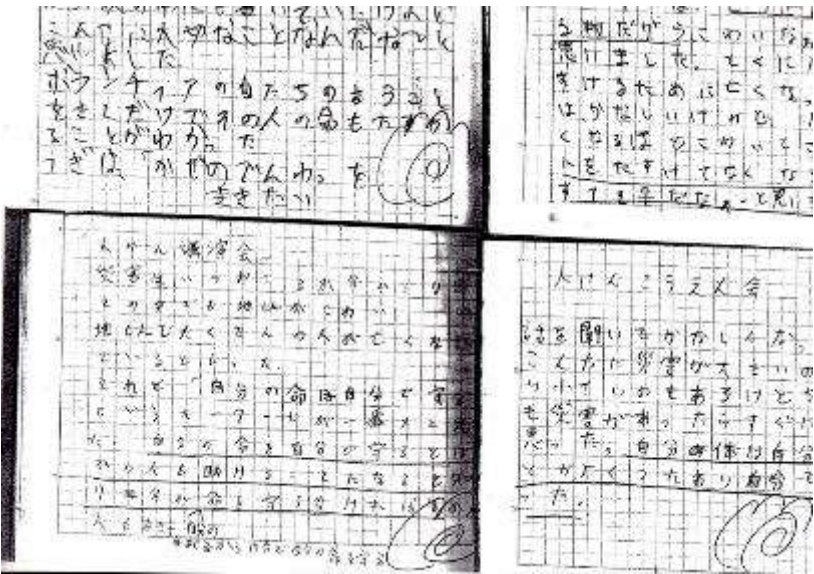
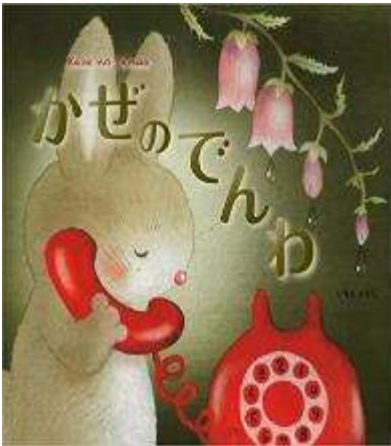
箕面市立中小学校 ～人権講演会「たいせつな命（いのち）」～

中小学校の松藤先生から、「心の復興、他者への思いやりから溢れる励ましが、生きる力を作り人との絆を育てることは世界中で大事にされなければいけないときです。被災地から見える人権教育は重要であり、人間として生きる上で大切な何かを子どもたちや教職員、保護者とともに学びたいと思います」とのお話をいただき、11月26日に、PTA 厚生委員のみなさん主催の人権講演会でお話をさせていただきました。2時間目は1～3年生、3時間目は4～6年生を対象に行いました。

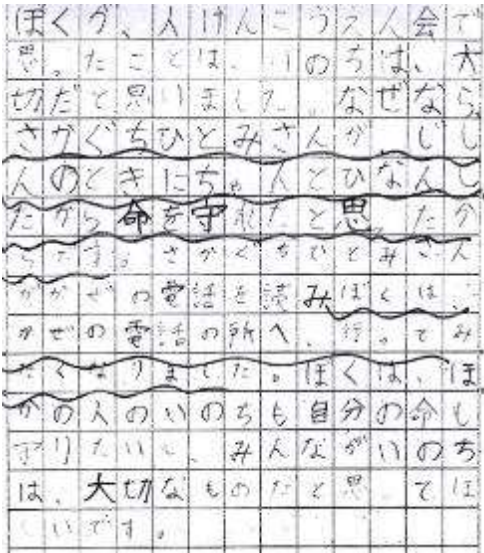
テーマは、「大切な命、震災から学ぶこと」・「命」です。低学年は「かぜのでんわ（東日本大震災を忘れない—いのちの絵本）」を通して、高学年は、「阪神大震災、東日本大震災」

をはじめとし多発する大規模災害の支援活動をとおしての大切な命の話をしました。「自分の命は自分で守る」という、私の思いが伝わったことが、子どもたちの発言から分かるすてきな会となりました。

（坂口 一美）



- ・先生や保護者の方から
- ・子ども達は真剣に聞いている様子でした
- ・昨年、地震を経験しているのでテーマは良かった
- ・実体験をもとに話して下さったのが良かった
- ・ニュースなどでは伝わりきらない生の声が聞けて良い機会だったですとても良かった
- ・命は自分で守るというテーマは1年生にとってとても分かりやすかったです。講演後「かぜのでんわ」の続きをみんなで見ました。



●箕面ユネスコ協会 東日本大震災スタディーツアー

「東日本大震災を忘れない」2019年10月20日 21日

東日本大震災以降、箕面ユネスコ協会は、これまで子どもたちとともに東日本大震災を通し「生きること、命の大切さ」考えるための活動を行ってきました。時間の経過とともに人々の関心が薄れていくなか、被災地から遠く離れた大阪でできる支援活動を、細く長く支援を続けていくために、ユースフォーラムや講演、チャリティー物産展なども開催してきました。

今年度は、「目に見える証」として、将来にわたり震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける活用するために、2019年9月22日にオープンした陸前高田市の「東日本大震災津波伝承館」（愛称：「いわてTSUNAMIメモリアル」）をメインとしフィールドワークを行いました。



○「東日本大震災義援活動2019」箕面市人権啓発連絡協議会

今年度も人権啓発協議会「東日本大震災義援活動」の現地コーディネートをして頂きました。

「浪江町立創成小・中学校チームなみえ G&B」事務局長で「放課後なみえ子どもクラブ」代表の新山伸一さんからお話を聞きました。南三陸町では、遠藤未希さんのお話を聞きました。



のお話を聞きました。

気仙沼市東日本大震災遺構伝承館（旧気仙沼向洋高校）・陸前

高田県津波伝承館・石巻市旧大川小学校・日和山公園・門脇小学校などを訪ねました。東日本大震災からの復興・復活を願い、現地で出会った人たちのメッセージを受け止め、語り続けるために被災地訪問スタディーツアーを今年度も行えたことに感謝いたします。



日 程：2019年11月22日（金）・23日（土）・24日（日）

訪問先：福島県浪江町、宮城県石巻市、南三陸町、気仙沼市、岩手県陸前高田市 参加人数 11名

●「みのおNPOフェスタ2019」

2019年10月27日（日曜日）に、みのお市民活動センター主催の「みのおNPOフェスタ2019」が開催されました。箕面ユネスコ協会もチャリティー物産展を開催し、多くの方に協力していただきました。

完売御礼

